

ニューヨークの図書館

丸善株式会社 向井 幸治



黒人文化研究図書館）から成り立っており、スタッフは、4000名弱、年間予算は300億を超える。各図書館は、独自のサービスで地域貢献を行っている。

その中でも特徴的なのが、今回訪問したマンハッタン地区にある科学・技術・ビジネス分野に特化した専門図書館のSIBLである。SIBLは、科学・技術・ビジネス分野に特化した約130万冊の蔵書と最新の電子データ資料を保有する「次世代のビジネス図書館」として有名である。

この図書館は、デジタル環境が極めて充実しており、他の図書館に比べ、ビジネス特化のイメージが強い。経済の中心であるニューヨークが更に経済力を強めるために、企業家を育てキャリアを強化し、ビジネスで成功することを目指した図書館である。

所蔵資料の分野は、マーケティング、広告、バイオテクノロジー、コンピュータの他、企業年鑑や各国の経済統計資料、法規制に関する資料などがあり、ビジネスを行う上でのすべての情報が揃っている。1階は、サーキュレーションデスクや閲覧室があり、5万点の開架書庫がある。これらは、すべてが貸し出し可能で100種類以上の新聞、雑誌も閲覧できる。書籍以外に各種DVDの利用、貸し出しも行っている。地下1Fにもリサーチ用の資料が豊富に揃い、フロアーの一

角では、経済専用のテレビモニターがあり、最新のニュースが確認できる。

〈ELECTRONIC INFORMATION CENTER〉

地下1階の奥側では、約100台のPCが設置されインターネットや各種データベースにアクセスできる。また、これらのデータベースは、(全てではないが)外部からでも接続が可能となっている。SIBLでは、購読料金の総額が2億円以上にもなる個人での利用が困難な高価なデータベースも全て無償で利用できる。訪問時に紹介を受けたデータベースは、ニューヨークの不動産情報と地図情報をリンクさせ、全ての建物のオーナーの情報(かなり詳しい個人情報も)を閲覧できるものであった。

〈コンピュータ・トレーニングセンター〉

地下1階の右奥では、コミュニケーションのような会議室、セミナー室を備えており、書籍の閲覧や電子データの検索以外に利用者の情報活用能力向上のためのセミナーを毎日開催している。講座は、基本的なものとして「資料目録やデータベースの使い方」、「インターネット、サーチエンジンの使い方、情報の評価方法、ビジネス情報の探し方」などがあり、応用編として「ビジネス情報としてマーケティング、サーチ」、「SOHO」、「株式投資や各種ファンド情報」、「特許&商標」、「特定ビジネス分野の講座」がある。その他、外部から専門の講師を招いた講座を開催して同じ問題意識を持つメンバーとのネットワーク作りにも有効に活用されている。

〈無料ビジネスカウンセリング〉

全米最大のビジネスカウンセリングに



応じるNPO団体SCOREのコンサルタントが常駐しており、情報収集だけで解決できない問題に対して各種相談に対応している。新しい産業や新しいビジネスのアイデアについて学び続け、情報に通じ、やる気ある若い企業家に接したいリタイヤしたコンサルタントが、図書館に関する事柄に学んだ上、無償でカウンセリングしている。相談は、1回1時間程度で何回依頼してもよく、一つのテーマを同じ人に引き続き相談することも、本部の専門カウンセラーに照会しよりの確なアドバイスを受けることもできる。広告から卸販売、会計から電子商取引、アパレルから貿易にいたるまで、様々な分野を網羅している。

SCOREのビジネス経験・ネットワーク・カウンセリングが、ビジネス活動を支える幅広いサービスを展開しており、図書館と相互に協力し合い、ビジネス色の濃いマンハッタン市民のニーズに対して適切な対応をしている。

ニューヨーク市の人口は、約830万、ほぼ東京23区と同じでその中にニューヨーク公共図書館、クイーンズ公共図書館、ブルックリン公共図書館の3つが図書館運営を分担している。そのうちニューヨーク公共図書館とクイーンズ公共図書館を訪問した。この2つの図書館は、地域によって特色ある市民サービスを提供して独自の地域貢献を行っている。

1. ニューヨーク公共図書館

科学・産業・ビジネス図書館

The Science Industry and Business Library

ニューヨーク公共図書館は、地域に根ざした85の地域分館と専門性の高い4つの研究図書館(人文社会科学図書館、科学産業ビジネス図書館、舞台芸術図書館、

2. クイーンズ公共図書館

他の地区に比べ、移民（図書館では、New Americanと表現）が多いクイーンズ区には、160ヶ国の出身者が住んでおり、話される言語は120以上、英語を母国語としない人も40%以上を占める。この地区を管轄するクイーンズ公共図書館は、「Enrich your life」をスローガンに本館と62の分館で構成され、地域市民の生活に密着したサービスを展開している。図書館の位置は、ジャマイカ地域の中心で道路から良く見えて来館しやすいところにある、ビル全体がグリーンの特徴で建物の中に多くの自然光を取り入れる仕組みとなっている。明るく馴染みやすい雰囲気を作り出して、住民にやさしい各種のサービスを提供しているが、中でも特に英語学習、児童向けサービス、医療情報提供サービスに力を入れている。

〈英語学習プログラム〉

多種多様な人種が集まるクイーンズ区



では、学校や職場で使う言葉（英語）と自宅での言葉（母国語）が異なる人たちが多く英語のリテラシーが他の地区に比べて低いと言われている。そのような地区を管轄するこの図書館は、市民がアメリカで生活していくために最低限必要な英語力を身につけるために有効ないくつかの学習プログラムを30年以上前から提供している。

具体的には、成人向けのプログラムを7つの成人学習センター（Adult Learning Center）と2つの家族向けリテラシーセンター（Family Literacy Center）を拠点に年間のプログラムを企画・開催しており、毎年6000人以上の市民が参加している。アメリカで特に英語のリテラシーが問題視されるのは、単に読み書きにとどまらず、就職の障害になったり、地域コミュニティから阻害されたりする場合があることによる。そのため図書館が行う英語学習プログラムは、読み書き以外にアメリカ社会の文化や生活慣習を身に付けることも目的にしている。

〈児童向けのサービス〉

共働きの親の多いアメリカでは、特に地域ぐるみで子供を育てる意識が強い。クイーンズ公共図書館も1歳半あたりから10代の子供を対象に児童向けのサービスを提供している。日本人から見ると特に興味深いのが、子供の宿題ヘルプ（自宅学習支援）である。アメリカの宿題は、資料を調べたりするものが多く、子供たちは図書館の職員やボランティアの支援を受けて様々な資料を調べながら宿題をこなしていく。宿題以外にも、学校の学習だけで解りにくいところの予習や復習を手助けしたりしている。

クイーンズ公共図書館では、児童向けサービスの専門的なトレーニングを受けた63名の職員と25名のヘルパーが子供たちのサポートを行っている。移民の中には、学校の課題をこなすための英語力がなく子供の質問に十分答えられないケースもある。また、学校が早く終わって家の帰っても一人になってしまいう共働きの子供達の放課後の居場所作りにも役立っている。このように図書館は、地域の子供達の育成になくてはならない存在となっている。

〈医療情報提供サービス〉

最近、市民が最も関心を寄せているのが医療情報の提供サービスである。今まで医師の話をそのまま受け入れていた市民が、医療保険制度の変更を機に自らの意思で医療情報を検索し、少しでも適切な治療方法に変えていこうとする傾向が強くなってきた。病気別の専門知識やより良い治療方法を得るため、各医療分野

の高度な情報をわかりやすく提供されることを望んでいる。

クイーンズ公共図書館では、地元の行政機関や病院とHealthLinkというネットワークを構築し、各種医療情報が図書館に集まる仕組みを作り地域限定の医療情報や医療イベント（検診など）の発信をおこなっている。場合によっては、病院の診療予約まで図書館を通じておこなうことができる。また、医療情報以外にも、日々の生活に有効な地域社会の各種情報を行政機関との連携ですばやく収集し、図書館から情報提供している。

3. 図書館のこれから

インターネット時代の図書館は、物理的な空間が不要になるとの意見もあったが、公共図書館では、地域社会への貢献のため、物理的な設備を利用して地域コミュニティの形成を推進することが重要な役割になっている。特に市民の参加によるネットワークは、図書館の基本的な機能である「情報と人」、「人と空間」、「人と人」を「つなげること」で市民に密着したサービスを展開している。

ニューヨーク公共図書館とクイーンズ公共図書館の地域に密着した各種サービスを紹介したが、大切なことは、画一的なサービスでなくその地区の市民が本当に望むサービスを提供することである。

最後、訪問したクイーンズ公共図書館では、各国の図書館と様々な交流を深めており、日本の公共図書館との連携も是非、進めていきたいと願っている。（教育・学術事業本部ソリューションセンター長）